

募集班長の模型部屋（第16回）

皆さん、こんにちは。一昔前、架空戦記物の小説や漫画がはやりましたが、（今でも流行っているのかな？）楽しんでおられた方も多かったのでは？私はそれらの中でも戦車が出てくるものが大好きだったのですが、この戦車が出てくるものは読んだ事が無いんですよ。もし、この戦車が南方戦線に登場していたら・・・少しは戦局が変わったかも。というわけで、今回は、日本陸軍最期の戦車（試作まででしたが・・・）の

五式中戦車です。（こんなにでかいのに中戦車？）



この戦車の存在を知ったのは、小学生5年生のとき「戦車大百科」なる分厚い本の中で見たのが最初で、試作車両のため砲身が付いておらず、米軍の情報部に押収されたときの写真が紹介されていました。戦争も末期で戦車を作る原料も無く、完成は無理だったのでは？と思ったもんです。あれから35年余りが過ぎ、ファインモールドさんから発売される情報を聞いたときには絶対に買おうと心に決め、発売されるや模型店を探し回って発見！その値段が約6000円には躊躇しましたが、決心が揺らぐ前に購入しました。リベットで接合されている当時の戦車とは違い、溶接により作られたそのフォルムはドイツ戦車にも劣らないのではと思ってしまいましたよ。

キャタピラが組み立て式のため、作るのに覚悟を要しました。そのまま作らずに箱を眺めること約2ヶ月・・・意を決して製作作業に取り掛かりました。



パーツ数は非常に少なく、車外装備品も少ないため車体・砲塔のくみ上げは比較的早く作り上げる事が出来ました。一番パーツ数の多いのはキャタピラですね（笑）一枚一枚表裏2枚に分割されたキャタピラを合わせるように接着し、その際に履帯ピンを挟み込んでいくのですが、私にはこれがなかなかの苦行でした。そこで、「いっそのことキャタピラ集中製作日を設定しまえ！」と、モデルカステンの「97式中戦車」「74式戦車」そしてこのキットの組み立て式キャタピラを同時に作りました。もう悟りを開きそうなくらいに疲れましたね。作ったことがある方は理解していただけるのでは・・



結構強そうな戦車に見えるのですが・・実践投入されていたらどうなっていたでしょう？



ウェザリングはタミヤのピグメント（ライトアース）と、いつものウェザリングスティックの併用です。泥の付き方は私のイメージで付着させてます。キャタピラが車体よりはみ出しているの車体側面下部に付着するのでは？と思いつつも、74戦車では同様にはみ出しているも sprocket ホイール（機動輪、ギザギザのある転輪のこと）周辺が一番泥が跳ねるので、今回は風雨により泥や土埃が流れ落ちた感じにしてみました。でも何かちょっと違う・・・また勉強しなければ。キャタピラは可動式なので、ウェザリングスティックを主に使用して泥を表現し、連結部の可動を阻害させない様にして撓みが出自然に出るようにしました。



車体色はクレオスの日本陸軍戦車色の枯草色、土地色、草色を塗装指示とおりに塗ろうと思ったのですが、このセットがなかなか店頭になく、それまで販売されていた同社の土草色、土地色、草色を塗りました。で、後日前者のセットを見たとき、その色の差を知って即購入、うっすらとその色を2度塗りし、イメージをあわせてみました。もっとも3色迷彩された事がない戦車ですからこの辺のこだわりはどうでもいいのですが・・・



フィギュアは同社の戦車兵セットのものを載せてみました。車体後部も過度にならない程度に埃をのせてみました。





結構強そうなのですが、この車体の大きさと75ミリ砲はちょっと細い気がします。この頃の主流口径の戦車砲が75ミリですからこんなものかな。

車体前部の37ミリ砲は上下しか動かないのに射撃できるのかな？と不思議に思ったりします。



そして私の好きな砲塔横向きのアングル。
もう、戦車のこの姿勢を見るだけでご飯3杯いけます（笑）

キャタピラの撓み具合も自然ですし、もしかしたら組み立て式キャタピラ初心者には良いキットかもしれません。値段は初心者ではありませんが。砲塔内部も砲尾が再現されているのにバスケット式の砲塔底板部やその他の諸装置が再現されてません。そのうちどこからガレージキットが出るのかなと期待してましたが・・・まあ、組み立てちゃえば見えないからいいか。

次回は・・・現在製作中。またお付き合いください。